スイス日本語福音キリスト教会

JEGニュースレター174号

www.jegschweiz.com

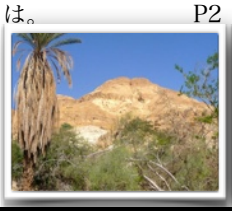
２０２０年２月１５日発行

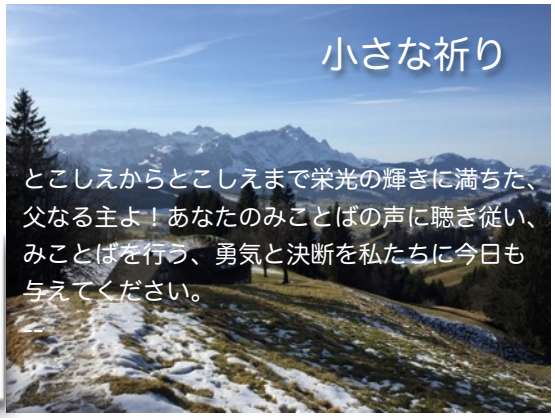
小さな証
荒野を歩くような病いの苦しみのなかで筆者が都上りの歌に見出したかけがえのないものとは。 P2

ユティカリトリート
この冬も、チューリッヒ市郊外のグライフェン湖畔に欧州から37名のユースが集いました。P3

日出ずる国から
新しい年、愛する母国日本から、スイスJEGに主の絆で繋がる兄弟姉妹からのご挨拶です。 P4から

また会う日まで
年末年始にかけて私たちは３人の愛する姉妹を天のふるさとに送りました。再会を楽しみにして。 P7から





主は、あなたの足をよろけさせず、
あなたを守る方は、まどろむこともない。詩篇１２１：３

スイス日本語福音キリスト教会　年間聖句

ちいさな証

私は山に向かって目を上げる

原憲二

スイス日本語福音キリスト教会会員

「私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」　詩篇 121篇 1～2節

主の御名を賛美します。

私たちクリスチャンにとって、どのような境遇に置かれていても、この方を見上げることのできることは最大の恵みです。この世で歩む限り、悩み苦しみがあり、災難に遭遇したり、病に倒れることがあります。そして究極的には誰もが肉体の死を迎えます。クリスチャンだからといって、災いが少ないとか、病気はしないということは無いでしょう。しかし、クリスチャンの特権は、そのような状況下にあっても信頼して見上げることのできるお方がいらっしゃることです。そして都のぼりのこの歌は、私たちにとっては、御国への歌ということです。

妻しのぶとイスラエルにて

昨年春のイスラエル旅行で、イスラエルの民が都のぼりをしたエリコからエルサレムへの道を（今は高速道路）途中下車をして幾重にも広がる荒野を展望できたことは貴重でした。

さてごく最近、例えるならばこの荒野を歩くような体験をしました。私は副鼻腔炎を悪化させて熱と痛みにうなされて2か月間近く、病院や自宅でのベットの生活を強いられたのでした。改善がみえない時は不安に陥るものです。荒涼とした山を越えたら次の山が現れるといった荒野の状況でした。

大いに励まされたのは、多くの兄弟姉妹の祈りと、Skypeでの早朝デボーション仲間と分かち合う聖書のみことばから、「私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」という思いを与え続けられたことです。この恵みに感謝しました。今回は幸いにして回復しましたが、いつの日か必ず最後には回復しないケガか病気を迎えることになります。この時も、「私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」と賛美できたら幸いです。「助け」とは、病やケガから回復してこの世に留まる幸せではありません。イエスキリストによる救いの約束です。それによって既に保証してくださっている山（みくに）への道です。今回の私の病は、これによって平安、さらには感謝の喜びを与えられたことが一番の恵みでした。

二番目の恵みは、神様はこれからまだしばらくこの世での使命を続けるため、私たちの身体を本当に心配してくださっているということを示された事です。

残念ながら人間の罪深さゆえに、神様が与えてくださった本来の動植物を、商業利益のために不純なものへと加工することが多くなされてきました。そして、私たちはそれに何が入っているかもわからずに食べています。長年の蓄積で、その不純物が免疫力や治癒力を減退させて現代の病気を増やす結果になっています。主は私たちの弱ったからだを憐れんでくださり、神様が初めに用意した自然のものから栄養をとって、体を浄化、回復するようにと知恵をもって、私にそして周辺に教えてくださいました。

具体的にはローカルで話題の「人参ジュース」なのですが、あまり詳しく熱を入れて書くと笑われそうなのでここでは省略しますが、神様は、これからの私たちの身体のためにも、知恵をもって食生活の転換をすることを教えてくださいました。

病を通して個人的に与えられた二つの恵みをお分かちさせていただきました。神様は予期もしなかった事柄を通して栄光を現わされる方です。事の終始を振り返れば感謝しか残りません。このただ中にあっても闘病生活をされている兄弟姉妹のことを覚えます。主が、必ずや人知を超えた恵みの業をもって栄光を現してくださる（さっている）と信じてお祈りいたします。

ユダの荒野

1、服部滋樹牧師が説教

２月９日（日）は、３月末の本帰国を前に、スイスJEGにてロンドンJCFの服部滋樹牧師が”天の神の大きな喜び”をテーマにルカ１５章11−３２からみことばを解き明かされました。通常、この箇所は”放蕩息子のたとえ話”として説教され、悔い改めた放蕩息子を慈悲深い父親（神）が両手で抱きしめるところで終わることが多い有名なたとえ話ですが、実は二人の息子を持ったある人のたとえ話です。

また、通常、パリサイ人になぞらえた長男の冷淡さにも、服部牧師はスポットを当てられ深い同情を示されます。この非常識なまでの父（親の）深い愛と赦しは、実は放蕩息子同様罪にまみれた小さな私たちに向けられていることを知らされる感動的なメッセージでした。

この”メッセージ”の録画はこちらで www.youtube.com/watch?v=t_YNey17zAU ご視聴いただけます。また、このメッセージは、マイヤー牧師によって翻訳されました。ドイツ語訳のファイルは、スイス日本語福音キリスト教会のホームページからダウンロードしていただけます。https://www.jegschweiz.com/

2、新シリーズ

1月12日の新年礼拝において、マイヤー牧師は2020年の年間聖句主は、あなたの足をよろけさせず、あなたを守る方は、まどろむこともない。詩篇１２１：３ から、全幅の信頼を寄せるに値する父なる神様について、みことばを解き明かされました。

１月26日からマイヤー・マルチン牧師による期待の新シリーズ”ピリピ人への手紙”が始まりました。初回は”キリストにある交わり”で、パウロが獄中にありながら喜びに溢れる手紙をピリピの教会に書いた背景についてもメッセージされました。

これらの録音ならびに録画はスイスJEGのHPでご視聴いただけます。https://www.jegschweiz.com/%E7%A4%BC%E6%8B%9D%E3%83%A1%E3%83%83%E3%82%BB%E3%83%BC%E3%82%B8-audio-video/

3、第27回年次総会

１月26日（日）の13時半からスイスJEGの第２7回教会年次総会が開催されました。総会に先立って会員に送付された活動報告、決算表、活動計画、予算表など諸資料をもとに審議が行われ、決算や予算案、2021年の集いへの委員選出等、全案件は承認されました。役員は、選挙の結果、前年に引き続き、原憲二兄（会長）、今村泰典兄、ミューラー・トマス兄が留任となりました

２月９日の愛餐会のスナップ

4、ユティカ　ウインター・リトリート

ユティカ・スライドショー

第３回、ユース＆ティーンリトリート2020（新しく名前をユティカとつけました！）が年明け、1月３から5日まで行われました。『神のみ声を聞く（パウロの生涯から学ぶ）』というテーマでマイヤー先生、加藤たくみ師からメッセージをいただきました。

ヨーロッパ各地から総勢３７名（スタッフ、礼拝参加者合わせて５０名弱）の若者たちが参加いたしました。今年は最終日の学びのセッションを主への礼拝として捧げました。JEGの方々にもお越しいただき、ともに主を礼拝できる喜びに満たされました。

お手伝いいただいた多くのスイスJEGの兄弟姉妹、また寝袋をお貸しくださった兄姉、タイカレーの差し入れをして下さったB兄のご両親、数え切れない祈りのサポート、このリトリートを物心と尊い祈りで支えて下さったJEGのお一人お一人、そして何よりも私たちの主に心から感謝をいたします。 今村葉子記

このニュースレターには参加者のユースの証と感想文が特集されています。今回編集レイアウトは、ミュンヘン日本語キリスト教会から参加された堀洸太郎兄が担ってくださいました。感謝します。

5、女児誕生

津田和明兄に元気な女の子が１２月２８日に授けられました！主の愛に留まるという意味で愛萌留（あもる）ちゃんと名付けられました。（また、フランスで学ばれていた奥様に因んでいます。）父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。ヨハネ１５：９

おめでとうございます。主が御両親を祝福し、主とご両親の愛情のもと、すくすく成長されますようにお祈りします。

6、第３７回ヨーロッパ・キリスト者の集い第２信発行

7月30日から8月2日までデュッセルドルフで、“人を生かすことば“をテーマに開かれる第37回ヨーロッパ・キリスト者の集いの第２信が発行されました。2月15日から3月15日まで参加希望を受け付けます。一人でも多くの兄姉が参加され、主の栄光を体験されますよう願っています。第２信、プログラム、参加申込書は集いのオフィシャルホームページからもダウンロードしていただけます。

また、昨年のヨーロッパ・キリスト者の代表者会議に於いても、主催教会の立候補がなかったために中止を余儀なくされつつあった2021年度のヨーロッパ・キリスト者の集いを、主に栄光を帰すために継続開催させたいとする切なる願いと祈りから、４つの教会が主催することで、実現に向けて歩み出しました。2月24日までに欧州各教会／集会の承認が得られれば、2021年７月29日から8月1日まで仏シュトラスブールで開催される予定です。重責を担うであろう実行委員に神様から必要な知恵と力が与えられ、誠実に神と人とに仕え、主の栄光を現せますようお祈りください。

7、世界各地からホットな情報が満載の月報／ニュースレター＆メルマガが届いています！

オーニンガー宣教師、クンツ・プスキラ宣教師、工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

みことばに支えられ

大八木タビタ
菅生キリスト教会

我が家では、神様の恵みに守られてゆったりしたよい新年を迎えました。昨年、献は生まれて初めて、クリスマス当日まで登校日でした。平成天皇陛下のお誕生日のおかげで、今までは23日以降がお休みになっていました。

でも、我が家でも、教会でも、クリスマスでした。献と勲は初めて、教会のトーンチャイムの演奏に参加しました。24日のキャンドルサービスで教会福音讃美歌の91番「神の御子は今宵しも」を皆さんで発表しました。夫の両親も聞きに来て下さいました。

休みになって３日間雪のあるところにいってきました。

22日はファミリー礼拝の後に、持ち寄りの愛餐会をしました。

菅生での持ち寄りは、クリスマスとイースターだけですので、特別にうれしい時でした。子どもたちは、成長とともに信仰をも深めることができますようにお祈りくだされば嬉しいです。

夫は現在庶務課で働いています。休日でも、家に職場の電話がかかってくることがあります。でも、年末年始は穏やかでした。卒業や入学に向けてこれから一番忙しい時期になりますので、祈りに覚えていただければ幸いです。夫が出勤する前に、短い時間ですが、み言葉と祈りの時を習慣付けていますので、み言葉に支えられますように。

皆さんも、それぞれの所で、主に守られて、導かれた良い一年を過ごせますように、そして、月二回の礼拝と交わりが祝福豊かな時となりますように心からお祈りいたします。

主により頼んで

シグリスト美智子
久留米キリスト教会

去年の3月16日に第三子の満(みちる)が生まれました。今はもう10ヶ月になります。恵(6歳)と真(4歳)は幼稚園などには行かず、ホームスクーリングをしています。

恵は4月から新宿シャローム教会チャーチスクール(トーブライフスクール)に通うことになります。ウルスが新宿勤めなので、朝は一緒に家を出ることになりそうです。新しい生活を恵もワクワク楽しみにしています。真も週に一度はトーブライフスクールのプレに通います。

美智子はBSFでのリーダーシップに忙しくしています。ウルスは働き盛り、朝5時に起きてジム通いを始め、健康診断で褒められました！毎日があっという間に過ぎていきますが、日々の隙間でする短い祈りにも主が忠実に応えてくださることを心から感謝します。

去年9月に美智子の祖母が亡くなりました。長い間、認知症で自宅での介護生活を送っていましたが、まだ認知症がそんなに進んでいない時に一緒にイエスさまにお祈りしたことがありました。私は認知症の祖母がちゃんと福音を理解したのか、覚えているのか、正直よくわかりません。でも私の母教会のお墓に納骨することが許されました。そしてその後、祖父も倒れ、今度は牧師先生に祈ってもらうことができ、先日祖父も天に召されました。

主は私が祈らなくなってしまった祈りをもう一度祈るように励ましてくださり、そしてその祈りに応えてくださいました。主の憐れみに感謝するばかりです。自分ではなくただ主に信頼することを学んでいる日々です。この一年もただ主により頼んで歩みたいと願います。

日本からお祈りします

河尻直
名古屋グレイスキリスト教会

大変ご無沙汰しております。2009年度にスイスJEGに集わせていただき、お世話になりました、河尻です。あれからもう10年が経つのかと、時の早さを感じています。久しぶりにこの場をお借りして、近況をご報告させていただきます。

今は私の仕事の都合で、関東にて2年間家族で生活してまいりましたが、次の4月には愛知県に戻ります。

関東では、川崎市麻生区に住み、主都福音キリスト教会に集わせていただきました。息子は4歳、娘は2歳になり、息子は今年度から幼稚園生になりました。

私の仕事はなかなか大変でしたが、家族皆の健康が守られ、教会では良き信仰の友も与えられ、とても感謝な2年間でした。支えてくれた妻、子どもたちには本当に感謝しかありません。

愛知に戻ってからは、また以前と同様に安城市に住み、母教会である名古屋グレイスキリスト教会に属する予定です。

神様が、スイスJEGの皆さんを守ってくださり、大いに祝福してくださるよう日本から祈らせていただきます。

暑いのがお好きな方へ

加藤雅也、智美
クアラトレンガヌバプテスト教会

2018-9年は、スイス日本語福音キリスト教会関係者との再会に恵まれました。1年前の年末礼拝を田辺両先生と奥多摩で迎えることができ、桜の季節に東京で田中伸二ご夫妻と再会し、夏にスイスでヘス明美姉と再会することができ感謝です。

雅也は現役最後の年となり、3月29日（金）までたっぷり仕事をしました。そして、4月から再雇用でマレーシアに再度派遣され、持続可能な水産業のために働いています。

また皆で東京の東久留米の実家を整理して公務員宿舎を出て横浜より引っ越しました。その後、智美の母が6年を超える入院生活を経て他界しましました。智美は、残った90歳を超える父の介護を続けています。

愛実（写真右）は、引っ越しや介護の手伝いで大活躍です。恵美（写真左）は、神戸で元気に働いています。 雅也が単身赴任になったので夫婦でなかなか一緒になれませんが、ラクビーワールドカップを二人で見に行きました。

今年はスイスも暖冬でしょうか。時節柄インフルエンザ等がありますので、くれぐれもご自愛ください。暑いのが好きな方は、マレーシア訪問を是非ご検討ください。いつかまた他の皆さんともお会いできる日を楽しみにしています。

年末礼拝を奥多摩で田辺先生ご夫妻と守りました

数え切れないお交わり

田辺正隆、みや子
奥多摩福音キリスト教会

私たちがドイツに導かれたのは，1993年の7月のことでした。海外に住むなどとは夢にも思ったことは無かったことですが，60，58の老夫婦が，二十歳になった三男と共にデュッセルドルフ日本語キリスト教会へと導かれたのでした。

日本でリーベンゼラとの関わりが深かった私たちは，その年から，スイスの日本語キリスト教会からお招きを受け，修養会に参加させていただいたのがJEGとこんなにも深い関わりを持たせて頂くきっかけともなりました。

正式に，スイス日本語福音キリスト教会に就任させて頂いたのは，2000年の二月二十七日のことでした。沢山の家庭集会，フランクフルトとの合同修養会，毎年持たれた「集い」。。。数え切れない人々との主にあるお交わり！

2015年の3月までで老夫婦は82と80でこの奥多摩の地に導かれたのでした。伝道者の書の三章一節から十一節を歩ませていただき心から「神のなさることは，すべて時にかなって美しい。」と，主に感謝し，主を賛美しています。

主のみことばは真実です

渡邉万智子
大阪インターナショナルチャーチ

私にとって2019年は特別な恵みの年となりました。というのもウェンディ・ゲルスタ師が過密なスケジュールの中、大阪にある私の狭いアパート（エレベータ無しの4階！）に滞在して下さったのです。久しぶりにお会いしたウェンディ師は、多くのことを乗り越えてこられ、恐らくまだその最中であるにも拘らず、キリストにあって強くあられ、以前と変わらぬご様子でとても嬉しく思いました。

特に朝食の際に共に祈り分かち合いができたことはとても楽しく、素晴らしく、そして非常に励まされました。このような素晴らしい機会を与えて下さった主に感謝の気持ちでいっぱいになりました。そしてまたこのことを通して、かつてスイスで私が救われるきっかけとなった2人のスイス人女性クリスチャン宅に住まわせていただいた頃を、つい先日のように鮮やかに思い出すことができました。

大阪城で、ウエンディ宣教師と

朝６時に起き、リビングで賛美と祈りと分かち合いをしてからめいめい出勤するという素晴らしい一日の始まりをもっていました。気が付けばそれからもう10年！樹氷が美しいアッペンツェルで洗礼を受けたのは2010年1月16日でした。

この10年間、横道にそれたことや主のご臨在を身近に感じられなくなることがありました。しかし聖書にある主のみことばは真実です。主は私たちがつまづくことがあったとしても見捨てず、時にかなって多くの助け人を送って下さいます。主ご自身も聖書を通して私たちに語りかけ、愛と教えを示し続けて下さいます。

11年目も主のみことばを瞑想しイエス様に似た者へと変えていっていただけるよう祈り求めていきたいと思います。

最後になりましたが、2020年もみなさまに主の導きと恵みが豊かにありますように。

「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」詩篇119篇105節

賜物を用いて神に仕える

マルティン・フィリップ&祐子

OM宣教師

皆さん、こんにちは！主の御名を賛美いたします。マルティン・フィリップと祐子です。私たちは５年間OM（オペレーションモービリゼーション）という国際宣教団体での奉仕のため日本に滞在していましたが、２０１８年８月に４人家族でフィリップの地元であるバーゼルランドに帰ってきました。

宣教師、と聞くと皆さんどんなイメージを持たれますか？教会を開拓している人？路上で伝道している人？教会で聖書の学びを導いている人？もちろんそのような宣教師も沢山います。しかし、宣教の働きには本当にあらゆる分野があります。神様に与えられた賜物やスキルを活かして会計の働きを担う人、世界中で神様がされている素晴らしい働きを多くの人と共有するためにジャーナリストとして発信する人、音楽や言語の賜物を用いて福音を伝える人・・・性別、国籍、年代を問わず、私たちは自分に与えられたものを神の御国のために色々な形でお返しすることができます。

フィリップは神様にコンピュータの技術と情熱をいただいて、インターネットが欠かせない今日の社会において、OMインターナショナルのウェブ開発者として仕えています。OMには１１０ヵ国もの国で活動してる宣教師がいて、様々な困難や挑戦ももちろんありますが、神様は彼らを通して素晴らしい御業を行われています。OMのウェブサイトでは、世界中からの報告や証、恵みのストーリーを読んだり観たりすることができ、また世界各地で行われている宣教プログラムや宣教旅行などの情報、今どこでどんなことが必要とされているか、どう宣教に関わることができるのか、OMのビジョンなどを知ることができます。

OMが活動している110ヵ国の支部の中には、インターネット環境が良くない所、自分たちでウェブサイトなどを運営する時間、技術がないところも沢山あり、フィリップはウェブ開発チームの一員として、より沢山の人が宣教に関わることができ、神様の恵みを分かち合うことができるように、アメリカやオランダ、日本などそれぞれ離れたところにいるチームメイトとコミュニケーションを取りながら、ウェブサイトを通じて情報を発信しています。

日本を離れる前は、物価の高いスイスで、OM宣教師として経済的にどう生活していけるのか、と不安もありましたが、神様は私たちの必要を知っていてくださり、満たしてくださっていますので、本当に感謝です。また日本にいる時にはできなかったこともすることができ、今の自分たちに一番合った場所を備えてくださった神様の恵みを覚えます。

祐子は、以前から重荷がある難民、移民、子ども達との関わりへの扉が次々と開かれ、聖書の学びや家庭集会も楽しんでいます。ドイツ語、日本語、英語の教会へ通い、それぞれの教会で貴重な交わりと大きな恵みをいただいています。今置かれている場所で、自分の与えられた機会や出会いを大切に、キリストの香りを放っていきたいと願っています。

子育ての学びの会を通して

原田　敬子

ミュンヘン日本語キリスト教会

ミュンヘン日本語キリスト教会では、親子集会という名称で、未信者の方を交えた集まりを月1回開催しています。小さなお子さんたちを母親の目の届くところで遊ばせながら、テキストを用いて子育ての学びと分かち合いをし、安藤先生による御言葉の紹介も行っています。現在のところ、定期的にこられる母子は約10組、うち未信者の家族が7組程度です。　私が考える親子集会の目的は、一つ目は参加されたお母さん方に対して、クリスチャンの方が書かれたテキスト（現在は「見つけた子育てのよろこび」バーバラ・バウマン著）を通して学びを行う中で、聖書の御言葉に触れてもらいたいということです。二つ目には一緒に来たお子さんたちに対して、自分は愛されているのだということを感じてもらいたいということで、居心地のいい雰囲気づくりを心掛けています。

ここ3ヶ月は、「望ましいコミュニケーションの方法」（批判的な表現は避ける等）について学び、意見交換をしました。海外在住の夫婦は、基本的には親の実家の助けがない状態です。参加されているお母さん方は、自分たちの力で何とかしなければならないという思いを抱え、子供たちと向き合っており、子育てへの関心が非常に高いと思います。

私は会の司会をさせて頂いていますが、司会をするのは本来とても苦手であり、会の前には不安とプレッシャーと孤独感とで時に押しつぶされそうなときがあります。「神に全てを委ねて･･･」と頭ではわかっていても、それがいかに難しく、「なんとか上手く司会をしなきゃ」というような自我がでてきてしまうことか！私がいかに本当の意味で「主に委ねていない」のかを思い知らされます。

ミュンヘン市庁舎前で

終わった後にも「これで良かったのか？」と感じたり、プレッシャーや負担もあるため「そろそろ親子集会の奉仕から抜けたい」という思いも時々出てきます。でも、気分が沈んでいる時に、親子集会に対してとてもポジティブな感想を頂いたり、聖書を学ぶ家庭集会につながるお母さんが起こされたりということがあり、大きな励ましになりました。特に、日本に一時帰国された際に、昔行っていた教会学校を尋ねてみたという参加者のお母さんからの報告を受けた時は、とても嬉しかったです。

このような会は一人ではできません。安藤先生を始め、姉妹が親子集会の輪に一緒に参加してくれること、また参加はできなくても親子集会のために祈ってくれている姉妹の支えは大きいです。「するとイエスは『それをここに持ってきなさい』と言われた。マタイ14:18」私は駐在員妻の立場なので、ミュンヘンでの生活も期間限定です。私のできることは、5000人にパンを与えることではなく、今持っているパンと魚を差し出すことです。これからもプレッシャーや不安が完全には無くならないと思いますが、私は今置かれた場所でできることをしていきたいという思いです。

教友（教会の友）細木朗子（あきこ）さんのこと

岡崎信吾

ウィーン日本語キリスト教会

老いてなお、背筋をピンと伸ばし、足早にサッ、サッと歩く細木さんの姿が思い出されます。細木さんとは世代的に近いこともあって教会では親しく話をする機会がありました。

細木さんは知的好奇心の旺盛な方で、お若いころの当時の女性としては今ほど婦人の社会的地位の高くないなかで早くから社会に出て様々な活動をされてきました。財団法人癌研究会図書館司書、国際医学情報センター（ＩMIC）　国際がん会議事務局秘書等を経て１９９５年より２０１５年までウイーンと東京の地で過ごされました。

ウイーンの街角で　2006年

パウロの信仰は、神の恵みと力とを体験していった信仰です。体験の信仰です。細木さんは信仰、信仰と声高に叫ぶでなく物静かで穏やかな中に神を体験していったのでしょう。そこに私は細木さんの信仰のつよさをみていました。

わたしたちウイーン教会は細木さんをはじめ先人たちの真の信仰にならい、主の御前に砕かれ、悔い改めて神に立ち返り、互いに神の愛のうちに歩むことではないでしょうか、とつよく思わされ祈ります。

細木さんはピアニストの娘朝子さんに看取られ笑顔のうちに天の御国へ旅立たれました。享年９４

細木さんの愛唱聖句

こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているものは愛です。

第一コリント１３章１３節

細木朗子姉　2019年12月19日召天

天使稲見節子さんの思い出

浜島敏

善通寺バプテスト教会

不思議な人です。彼女は、彗星のようにある日突然私の人生に入り、また突然消えて行きました。ひょっとして、彼女は、私たち夫婦に遣わされた天使だったのかもしれません。

稲見節子さんが、私に会って相談したいといったのは、5年ほど前のことでした。私が、国際景教研究大会を四国学院で開催し、景教の賛美歌とも言われる雅楽を楽部の方々と共に笙を吹きました。参会者の一人、関西の山崎牧師の紹介でした。バイオリンの名手辻久子の愛弟子で、あちこちでコンサートを開いている方でした。

西洋音楽と東洋音楽のコラボを考えておられました。浄瑠璃を研究し、ヨーロッパの「日本祭り」で共演することも計画されていました。四国の数カ所で演奏していただきました。映像を背景に、その美しい音は会場を魅了しました。欧州日本語教会修養会でも演奏してくださいました。スイスでは名物のチーズフォンデュを共にいただいたのも懐かしい思い出です。四国では知恵子共々ドライブにも行きました。

稲見節子姉　2020年1月13日召天

2年前、全身癌の宣告を受けました。何度も、死の谷を通りながらも、皆さんの祈りに支えられ、病床にありながらも作曲、編曲を続け、２枚のCDを出されました。奇跡的に回復の兆しが見えたこともありましたが、癌は着実に彼女を蝕んでいて、昨年末に急変、1月13日に主のもとに帰られました。

東京の鵜の木教会の清野先生をはじめ、信徒さんたちが、入れ替わり立ち替わり訪問してくださり、最後の日には、15人もの人たちが彼女の個室で祈り、賛美をしてくださいました。先生が「また会う日まで」の賛美ののち、「もうすぐ節子さんは、イエス様に会えますね。天国に着いたら、私たちを待っていてください」と言われると、はっきり「ハイ」と答え、平安のうちに静かに主のもとに旅立ったということです。病床にありながらも、常に家内のことを気遣って、祈ってくださっていました。感謝。主に栄光をお帰しします。

安子が愛していたもの

作田銀也
日本基督教団武山教会

安子の葬儀は1月30日、入居していた「衣笠ホーム」で行われました。沢山の明るいお花と多くの皆様に囲まれシンプルでも暖かいものでした。司式は大野高志牧師、聖書は詩編23編（口語訳）会衆讃美は讃美歌第2編136番と聖歌590番、何れも安子が愛していたものです。奏楽はバイオリンの蜷川いづみさん、ピアノの菅野万利子さんがご奉仕くださり、特別讃美のアメージンググレイスは多くの皆様の心を打ちました。

最後の献花の時は讃美歌312番、405番の予定でしたが、急遽シューマンのトロイメライに変えていただきました。

作田安子姉　2020年1月24日に召される

ホームの霊安室に安置された安子の遺体と何度も対面し話しかけている内に、彼女が少女時代に戻り、お花畑を飛び回っているような印象を受けたからです。

親族を始め多くのクリスチャンでない方々の心にも響く伝道葬儀でした。

安子さんが召されたのですね。でも、安らかに逝かれたこと、主の御腕の中に包まれて運ばれたことを思い、主に感謝をささげます。
A.K.

安子さん、今はのびのびと飛び跳ねておられることでしょう。銀也さんはじめ、ご家族の慰めをお祈りします。　H.I.

作田安子姉が平安のうちに主のもとへ導かれこの世を去ったことを知り感謝と共に寂しさの混じった気持ちです。実はつい最近姉のことを思い、今年一時帰国の時お尋ねしたいと思っていたからです。身近にいる家族や友人、主にある兄弟姉妹が周りにだんだん少なくなります。分かっていることですがさみしいです。いつか自分の時がくることをその度に知らされております。最期までイエス様を信頼して日々の歩みを持たせて頂きたいと願っております。　T.R.

敬愛する安子夫人のご召天のお報らせを謹んでお受けいたしました。同年代の先輩として、長年親しいお交わりをいただいて参りました。地上でのお別れの寂しさはありますが、今は神様のお側で更に豊かな生命に満たされていらっしゃることを想っております。作田兄、ご家族の皆さまのお悲しみを想っております。
M.K.

明日の朝にしようね！

内山和子
横須賀市馬堀聖書教会

作田安子姉の葬儀式出席のため、衣笠ホームに行ってきました。主の御栄光のみちみちた素晴らしい時でした。田辺先生ご夫妻が奥多摩から参列しておられました。丁度ご帰国中のミラノの内村先生もいらしておられました。

1月23日、安子姉はホームの夕食を召し上がり、作田兄が完食でしたと食器を下げられたあと、なぜか急に作田兄がパリで過ごした日々は楽しかったね！幸せな日々だったね！！と安子姉に話しかけられ、しばしパリの思い出にひたられたそうです。

その後いつものように夜の家庭礼拝をはじめようとしたら、彼女がとっても眠そうだったので、いいよ、休みなさい！明日の朝にしようね、バイバイと言って別れたのが地上での安子姉との最後の会話となりました。

翌朝、ホームから　電話でとんできた時には、もう病も苦しみもない主のもとに旅立っていました。でも、まだ温かくて安子と呼んだらすぐに目をさましそうな安らかな寝顔でしたと、作田銀也兄はお話なさいました。

また、それまでに住んだことも訪れたこともなかった三浦半島に導かれたことも不思議で、いったいどんなところかなと思いつつ来てみたら、古い知人たちがそこで待っていてくれて、主の導きに感謝しました、とのお話もありました。

温暖な横須賀で最後の日々をお過ごしいただけて、吉村美穂さんや森よしさんと昨年お見舞いにもうかがえて、この度は皆様のお気持ちを代表してお葬儀にも参列させていただき、こうして、そのご報告ができましたこと主に感謝です。

2006年スイス・エメッテンでのヨーロッパキリスト者の集いで夫婦で賛美される。